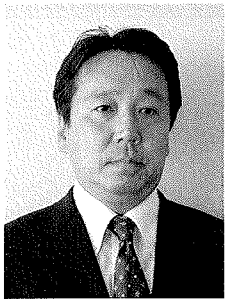

巻頭言

スミレの咲くこの頃

（財）日本植物調節剤研究協会　常務理事　**横山　昌雄**

植調研究所のある茨城県牛久では桜が咲き，田起こしが始まり，あちこちで春を感じさせる兆しが現れている。春を感じさせる花の一つにスミレの花がある。牛久のあちこちにスミレの花が見られるようになった。スミレの花は小さく決して目立つ花ではないので，群生していないと見過ごしてしまう。しかし，「春の野に菫（すみれ）つみにと来し我そ野をなつかしみ一夜寝にける」と山部赤人が万葉集で詠んでいるように，古代からスミレは日本に自生し，可憐な花は人々に愛されてきたようである。

スミレにはスミレ，タチツボスミレ，エイザンスミレ，ニオイスミレなどの種類があることは知っていたが，日本にはそれ以外，多くの野生種があるようだ。野山に行って，少し注意して探すと花の色や葉の形が異なる数種のスミレを容易に見つけることができる。さらに注意してみると，同じ種類らしきものが群生しているなかに，異なる種類が混ざっているのを見つけることができる。また，日向に生えている種類と木陰で生えている種類がそれぞれ異なることを見つけることができる。

牛久の植調研究所内にも数種のスミレが自生している。普通のスミレとタチツボスミレが多いが，ハート型の葉に濃い紫色の花や白い花を付ける種類がある。葉の形が同じだが明らかに長さが異なるものもある。また，似ているがどこかが違うものも少なくない。交雑しているものもあるのかもしれない。細長い葉と濃い紫色の花を付けるいわゆるスミレとハート型の葉と淡い紫色をした花を付けるタチツボスミレについては，私でも判別することができるが，それら以外については残念ながら判別することができない。

スミレは多年草で地下茎を張って増殖するが，種子でも繁殖し，かなり広い範囲に拡散するようである。平地だけでなく，山岳地帯にも生息している。里山にはいろいろな場所で見かけるが，耕作している田畑で見かけることはない。公園，ゴルフ場の芝生の中にときどき見かけることがある。ゴルフコースでは防除の対象になる。どこからやってきたのか分からないが都会のブロックを敷き詰めた道路の隙間に咲いていることもある。我が家には白い花のスミレとエイザンスミレがある。これらは入手したものであるが，どこからやってきたのか普通のスミレもいつのまにか住み着いている。とても人懐っこい植物ともいえるが，もともと，スミレの生息地に我々が住みついただけなのだろう。

スミレに限らず「雑草」はとても人懐っこい。人の生活する場所ならどこにでも現れる。そこは雑草の住処であるから。雑草はスミレ以上に多種多様であるから，取っても抜いてもすぐに次から次へと探す必要もないほど生えてくる。排除するだけでなく，多種多様な雑草を上手に仕分け，お互い住み分ける場を作ることも必要であろう。雑草は農作物にとっては悪玉で，農作物を守るには雑草を排除するしかない。除草剤をはじめ，機械防除，マルチ，カバークロップなどいろいろな防除手段があるが，それぞれ特徴は違うものの，いずれも雑草を排除する手段である。一方，雑草を上手に仕分けして活用すれば，排除することなく雑草との共存が図れる。そんなときも除草剤などが利用できる。上手く利用しないととんでもないことになるかもしれないが。